

13期 生演奏を楽しむ音楽科 ← ～ 豊かなひとときを ～ ←

日時： 2025年6月13日 (金) 午前10時～12時 ←

場所： 池田市 ナムの広場 ←

講師： 清原 邦仁 ピアノ： 岩本 実姫 ←



〈 第4回講義 オペラの魅力①テノール 〉 オペラのお話あれこれ

講義内容

1 オペラってなに？… 現代における、オペラの定義は

作曲家に決定権がある。(手がける作曲家がオペラと言えばオペラとなる)

2 いつ、何処で、誰が… 1598年イタリアのフィレンツェで芸術集団カメラータが始める。

何のために… 当節の音楽は墮落しており、形式や様式において古代ギリシャの音楽に戻るならば音楽は改善されるだろう。それによって社会も改善されるに違いないと考えた。

どんなストーリーが多かった？… ギリシャ神話、叙事歌など。

3 オペラの種類

正歌劇 (オペラ・セリア)

喜劇 (オペラ・ブッフア)



4 鑑賞… バロックの作品から

鑑賞した曲

- ① 歌劇【セルセ】より 樹木の影で（唯一無二のフレーズ感）1694年
- ② 歌劇【リナルド】より 私を泣かせてください（感情の爆発について2つのアプローチがある曲）（1711年） 同じ言葉を繰り返していても、感情の込め方により表現方法が変化していく。
- ③ 歌曲【パーリデとエレナ】より ああ、私の優しい感情が（1770年）
恋しい人の名前を呼ぶが、返事が返ってこない。感情の高ぶりと共に、名前を呼ぶ歌声の抑揚や表情が変化していく。

◎オペラの歴史を変えたヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

隠れた名曲。次々と変わる曲想

- ④ 歌劇【フィガロの結婚】より “私が若かったころは（1786年）
哲学的でストーリーのある作品。オペラの本質を語っていると言われるようになってきた隠れ名曲。
- ⑤ 歌劇【魔的】より うるわしい絵姿（1791年）
音のない瞬間があるのが面白い曲。曲の終わりあたりで高音がはいり、歌手にとってはしんどい曲（モーツァルト作曲では、時にみられる特徴）。

◎最後の《オペラ・ブッフア》？

- ⑥ 歌曲【愛の妙楽】より 何て美しくなんて可愛い（1832年）
ガエターノ・ドニゼッティ作曲
声を掛けても振り向いてくれない愛しい人へ、なんて美しくかわいらしいんだってことを、感情たっぷり込めて歌い上げている。耳に入ってきやすく、曲調もかわいらしい。

◎小唄のようなアリア

- ⑦ 歌劇【リゴレット】より あれか これか（1851年）
ジュゼッペ・ヴェルディ作曲

◎心情の表現

- ⑧ 歌劇【椿姫】より 燃える心を（1853年）
ジュゼッペ・ヴェルディ作曲
会うたびごとに心が動いていく様子を歌い上げている。



感想

清原講師の話されるオペラの歴史や曲のストーリーは、乗りの良い関西弁で親しみやすくかみ砕いて説明されるので、分かりやすく楽しい講義でした。鑑賞の場面では、歌われる前に曲の背景にあるストーリーや感情の動きを話されるので、情景を思い浮かべながら鑑賞できて曲の味わいも倍増します。

オペラは馴染みのない分野でしたが、とても楽しくワクワクな時間を過ごさせて頂きました。清原講師より解説付きの公演のご案内があったので、8月は茨木へオペラ鑑賞に出掛けてみようと思います。